

今年も城跡芸術展の季節が巡って来た。

夏の火照りがまだ残る石垣に背中を当てて空を見ていた去年のことを思い返している。

あの時どうしてあんなにどの作品も魅力的に見えたのか、美術館で見る作品とは全く違った顔をしている作品は亀山城址の自然と一体化し、野心やしがらみから解放されたかのような清々しさを漂わせていた。あれからぼくの作品の見方が変わったように思う。あの時が初めての美術鑑賞だという人がいたら、それは何と素晴らしい初体験かと羨ましくなる。

作品も人も自然から生まれ自然に還ってゆく、城跡芸術展は一つの生態系として、それぞれの作品が根で繋がりいろんな交換や伝言の網が張り巡らされているのだろう。作品を見た人、触れた人、多様な人たちが作品を通じて人や自然とつながり、芸術の網の目が亀岡から世界に広がって行くのを夢想している。

一面の稲穂の間を、どこまでも続く細道が山の裾野に消えてゆく。立ち枯れた栗の木の長い影が横断歩道を横切る。庭先の洗面器の水に何度も何度も尾っぽを差し入れるトンボとそれを狙うカマキリの鎌の鋭さ、至るところに自然は人の心を和ませ驚かせる仕掛けを潜ませている、何千年何万年も昔から。

それを人類は歌にしたり絵にしたり彫像にしたりして愛でただけでなく、収穫し供えみんなで食する祭を編み出して来た。今や聖地となった戦の城跡、束の間の芸術の饗宴。なびけ亀山。

かめおか霧の芸術祭 総合プロデューサー
松井利夫

主催：
かめおか霧の芸術祭実行委員会
亀岡市

協力：
宗教法人大本
亀岡祭山銚連合会

お問い合わせ：
かめおか霧の芸術祭実行委員会事務局
(亀岡市文化国際課内)
kirikameoka@gmail.com
0771-55-9655 (直通)

KIRI
かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation

文化庁

令和5年度
文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
文化庁移転記念事業

2023 城跡芸術展

KAMEOKA KIRI ART CULTIVATION
SHIROATO ART EXHIBITION

2023年 10月14日(土)～25日(水) *会期中無休

丹波亀山城跡 (大本本部)

(〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸)

開催時間：午前10時～午後5時

観覧料：無料

ARTISTS 出展作家：

1	キリノマチ	Kirinomachi	ワークショップ・プロジェクト
	2023年	キリノマチ	として活動開始

2	画材循環プロジェクト「巡り堂」	MEGURIDO: Art Recycling Project	プロジェクト
	家財回収事業を行う企業、社会福祉法人が運営する美術館、そしてアーティストが出会い、不用になった画材を次の使い手へ渡すアートプロジェクトとして、2022年に亀岡で始動。みずのき美術館と開かれたアトリエを拠点に、受け取った画材の仕分けとクリーニングを行い、イベントなどを通じて必要とする人々へ提供している。自治体や若者の相互支援団体と連携して集まったボランティアスタッフにっつての、社会参加につながる居場所にもなっている。		

3	吉田伊佐	Yoshida Isa	洋画家
	1959	京都府南丹市日吉町に生まれる	
	1984	京都市立芸術大学美術学部（油画専攻）卒業	
	1986	日吉ダム建設により亀岡市千代川町に集団移転	
	1999	これより全国の百貨店、画廊で個展を多数開催する	
	2011	日展特選受賞「時を超えて〜静物と風景画展」（ホキ美術館）、ART EXPO NEWYORK（New York）Lineart	
	2011/2013	「光と風をかんじて・・・展」（ホキ美術館）	
	2014	「吉田伊佐展〜日本の原風景を追って〜」（南丹市日吉町郷土資料館）	
	2016	「吉田伊佐展〜四季の移ろい〜」（南丹市立文化博物館）	
	2019	「芦生の森」〜森の魅力を探る〜（南丹市立文化博物館）	
	現在	日本美術家連盟会員 亀岡市千代川町在住	

4	大村大悟	Omura Daigo	美術作家／彫刻家
	1984年	石川県生まれ。「道具と身体」「建物と装飾」など関係性の中に生まれる物事の“意味”をテーマにした彫刻作品を制作している。近年は作家活動と並行して民具の調査・復刻製作や特注什器の制作も手がけている。実制作を通じて様々な素材や技法の研究を行う一方「原始的な道具作り」などのワークショップも不定期で開催。	

5	渡辺信喜	Watanabe Nobuyoshi	日本画家
	毎年、4月に東京都美術館で開催される「新日春展」や、11月に国立新美術館で開催される「日展」に出品しています。		

6	西久松吉雄	Nishihisamatsu Yoshio	日本画家
	1979年京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了。在学中より創画展に出品する。1979年京都日本画美術展で新人賞を受賞し、京都府から海外研修に派遣される。1994年京都新聞日本画賞展大賞、1995年山種美術館賞展優秀賞、2006年創画会正会員推挙、2010年京都美術文化賞、2015年秀明文化賞、2020年京都府文化賞功労賞など受賞。2018年成安造形大学名誉教授、現在浜田市立石正美術館館長、成安造形大学客員教授、創画会常務理事		

7	崔石鎬	Choi Suk-ho	美術家／ダンサー
	1994年来日して、1999年 京都市立芸術大学大学院彫刻専攻終了後日本、N.Y、スペインなどで活動しています。個人経歴は省略しますが現在では関西を拠点として大阪福住画廊で個展と、日韓交流展も積極企画実行しています。		

8	小峰花香	Komine Hanaka	漆芸作家
	1998年京都府亀岡市生まれ。2021年に沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン工芸科工芸専攻漆芸分野を卒業。その後、2023年に京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻漆工を修了。主に文様や生き物をテーマに、民族的で不思議なエネルギーを感じさせるような漆作品を制作している。現在は、香川県漆芸研究所にて研究生として在学中、沖縄・京都・香川の漆に触れ、それぞれの特色を活かした作品作りに取り組んでいる。		

9	WATAKAMA／わたかま	陶磁器スタジオ
	2015年に綿引恒平、白川真悠子による陶磁器スタジオ「WATAKAMA／わたかま」設立。2016年「パンのうつわと木のスプーン展」WATAKAMA/わたかま×鈴木健太郎	
	2017年「ふゆのうつわ展」	
	2018年「パン屋で出会った陶芸家と木工家のうつわ展」WATAKAMA／わたかま×大矢一成	
	2019年「たびのちゅう」	
	2022年「まいにちのうつわ展」	
	2022年「ふきよせ」WATAKAMA／わたかま×大矢一成×佐藤由輝	
	2022年「くもとはねと、ワイン。」	

10	松岡勇樹	Matsuoka Yuki	美術家
	1994年 京都府亀岡市生まれ		
	2018年 三菱商事・アート・ゲート・プログラム2018年度奨学金制度奨学生		
	2020年 第8回郷さくら美術館 桜花賞展 買上げ京都市立芸術大学作品展2019 同窓会賞京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了		
	2023年 京都日本画新展2023 奨励賞・京都市長賞		
	現在 京都芸術大学通信教育部書画コース 非常勤講師		

11	稲あゆ美	Ina Ayumi	染織作家
	1997年京都府亀岡市生まれ。2021年に京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻染織を修了。織の技術の中でも、絵画的な要素を持つ綴織のタペストリーを制作している。タペストリーは長い時間をかけて織りあげる。その時間と同じようにタペストリーに日常の中で変化し続ける日常をとどめる・記録することができるような作品を目指し、制作を続けている。		

12	YUKO KIMOTO・Hikaru Toyoda	アーティスト
	YUKO KIMOTO：絵描き、デザイナー。ロンドン芸術大学セントラルセントマーチンズ・ファッション科を卒業し、ロンドンやパリを中心に、シャネルなどファッションブランドでデザイナーとして経験を積む。独立後は映画衣装やウェディングドレスのデザイナーとして活動し、藍染の日傘をプロデュース。2015年、帰国を機に絵を描き始め、星野リゾート×avex主催のアートコンペに入賞。三菱電機に作品提供。ループル美術館に作品出展。現在は拠点を京都に移し、プロダクトデザインや絵画制作のワークショップを開催したり、かめおか霧の芸術祭ではプランナーとして「開かれたアトリエ展覧会」などを企画・制作している。	

13	森太三	Mori Taizo	美術家
	1974年大阪府生まれ 1996年の初個展以降、個人の身体感覚によって生みだした小さなカタチを集積させて、展示空間内に架空の風景を表出させる作品を発表。現在、亀岡市内のアトリエにて制作を行っている。みずのきアトリエ講師・みずのき美術館 インストーラー。京都芸術大学・京都精華大学・成安造形大学非常勤講師		

14	西野康造	Nishino Kozo	彫刻家
	兵庫県生まれ。77年京都市立芸術大学彫刻専攻科修了。宇宙や空の空間を意識し、チタン等を素材に繊細でダイナミックな彫刻作品を制作することを強く意識している。代表作に、翼のシリーズ他、ニューヨークの4ワールドトレードセンターのエントランスホールに「Sky Memory」がある		

15	辻將成	Tsuji Masanari	美術家／ダンサー
	三重県松阪市出身の辻將成は、身体・空間・時間をテーマに東海地区を中心に作品を制作しているアーティストであり、現役のBBOY（ブレイクダンサー）でもある。10代から関わってきたダンスカルチャーとアートの文脈から制作・研究し、瞬間的な踊りの儚さと同時に残る痕跡に視点を置き、様々な作品を生み出している。		

16	ベリーマキコ	Berry Makiko	日本画家
	1975年亀岡市生まれ。自然児として里山を謳歌。1999年成安造形大学卒業後 メロポリタン美術館フェロー、2008年帰亀。抽象と具象を織り交ぜ生命の慈しみを表現。タークナフアンタジー、第4回京都日本画新展大賞、第2回藝文京展優秀賞、京都日本画新展 in 二条城〜100人の画家・嵯峨野線を旅して〜。2021年第8回東山魁夷記念日経日本画大賞入選。2021年今治市大三島美術館企画展。京都日本画家協会会員。		

17	石塚源太	Ishizuka Genta	美術家
	漆が生み出す皮膜をテーマに、その表情に境界や身体的な意識を投影し作品を制作している。木の樹液である漆に然るべき形を模索し、造形に展開している。そして空間を含めた漆の振る舞いと人の関係に新しい場を生み出そうとしている。京都府亀岡市にて制作。		

18	小松千倫	Komatsu Kazumichi	美術家／音楽家
	1992年高知県生まれ、京都市在住。音楽家、美術家、DJ。2022年、京都市立芸術大学大学院博士後期課程メディア・アート専攻修了。これまでに、angoisse（バルセロナ）、BUS editions（ロンドン）、flau（東京）、Manila Institute（ニューヨーク）等、様々なレーベルより複数の名義で膨大な数の音源をリリースしている。また情報環境下における情報とそれに隣した身体の関係、その記憶や伝承の方法について光や歌を用いて制作・研究する。		

19	荒井優作	Arai Yusaku	音楽家
	1995年生まれ。神奈川県出身。京都府在住。早稲田大学社会科学部社会科学科卒業。近作に写真家の身体を主題とした『a two』（2023）や butaji とのユニット butasaku での『forms』（2022）など。ラッパーやシンガーのプロデュース／リミックスや、映画／パフォーマンス／ファッションショーの音楽も多く手がける。		

20	上田普	Ueta Hiroshi	書家
	1974年淡路島生まれ。幼少から母親の元で書を学ぶ。四国大学書道コース卒。中国・杭州大学に留学後、カナダ・トロントで個展やSotheby’s NYでの作品販売など2年間の活動をし、2002年京都に移る。2005年京都市美術協会より新鋭美術作家に選出。その後アート・シドニー、韓国国際アートフェア、木津川アート、Water Tower Art Fest2014（ブルガリア）、Art Fair Tokyo、ニュー・ブランシュ等国内外のアーティストイベントに参加。他、NMB48、男前豆腐店、叶匠壽庵、武田薬品工業株式会社、峰家旅館、AMAN京都等のクライアントワーク、時代祭館十二二館内の映像、東アジア文化都市・京都2017のプロモーション映像、VRによる書道パフォーマンスなど最先端の映像制作にも関わる。四国大学書道文化学科 大阪電気通信大学 非常勤講師。		

21	奥村博美	Okumura Hiromi	陶芸家
	1953年 京都生まれ		
	1978年 京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了		
	1979年〜 亀岡で陶作		
	轆轤、石膏型、紙型、染付、印花などの技法で器を制作		
	1987年、印花技法を展開して象嵌器のシリーズを始める。1992年39歳の時、一生この仕事をするのは辛いと思ひ、タタラ技法による白軸器のシリーズを開始。タタラの魅力にはまって一枚の板から形作る皴髪膚、つまみ取った土を指で広げて繋ぎ合わせる皴髪の器、釉薬の面白さに目覚めて火焙器へ。		
	2019年、右手不具合のため制作方法を模索、指先を使わず成形する緊縛のシリーズを始める。		

22	大矢一成	Oya Kazunari	木漆工芸作家
	「樹の一生を作品化する」とをテーマに、樹が生まれてから土に還るまでに起こるドラマや自然現象を、木と漆を用いて表現しようと試みている。触って感じる木漆工芸作品を目指して、樹を植えるような気持ちで作品を制作している。		
	2004年京都市立芸術大学美術研究科（漆工）修了。京都指物工房での修行を経て、京都市立芸術大学漆工研究室（准教授）		

23	西久松友花	Nishihisamatsu Yuka	陶芸家
	1992年京都府生まれ。2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器修了。宗教的象徴物や歴史的・文化的背景を持つものの形や装飾を象り再構築させた陶立体を制作する。主な展覧会に美の予感2023-生彩-（高島屋／東京、京都、名古屋、大飯店）、ART & CITY AWARD presentsシエリアタワー中之島（2023、グランプリ受賞）、Slow Culture #kogei（2023、京都市立芸大ギャラリー @KCUA ／京都）、「Kyoto Art for Tomorrow -京都府 新鋭選抜展2017-」京都文化博物館（2017、NHK京都放送局賞受賞）など。		

24	出口鯉太郎	Deguchi Koitaro	陶芸家
	1960 亀岡市に生まれる		
	1983 金重榛氏の元で陶芸の道に入る		
	1986 京都市立工業試験場陶磁器研修専科修了		
	1995 日本橋三越本店にて初個展		
	その後、高島屋京都店、大飯店、岡山店、名古屋松坂屋本店等にて個展		
	金重一門展やギャラリー等で個展やグループ展を開催		

25	ZENG HUIRU	陶芸家	
	2022 京都精華大学大学院 芸術研究科（陶芸専攻）修了		
	2023 京都精華大学大学院 芸術研究科 博士後期 芸術専攻 在学		

26	Yuumi Hioki	アーティスト	
	日置 結弥-Hioki Yuumi		
	岐阜出身。		
	京都府南丹市八木町の古民家に2018年より住まう。		
	二十代より、旅をしながら、日本の奉納舞、盆踊り、台湾の原住民文化の輪踊り、インド・ラジャスタンのカルベリアダンスに出逢い、人と踊りの根源的な繋がりを探究。京都西陣に14代続く織元であり、現在亀岡で養蚕を営む“織道楽 塩野屋”さんと出逢い、お蚕さんという命の不思議や、日本における絹文化について教授いただく。2022年より南丹市八木町の間、“透含 -tosa-”にて、“Silk labo&road”を主宰。		

27	ミシオ	Mishio	美術家
	1998年 京都府出身		
	2018年 宮城県石巻市のアーティストスペース「石巻のキワマリ荘」に移住		
	居住部屋をアートスペースと併用する「おやすみ帝國」の運営を2021年まで行う		
	直接的・間接的に自身を取り巻く身の回りの出来事を元に、主にドローイング／ペインティングの制作を行う。		

28	山口さとこ	Yamaguchi Satoko	彫刻家
	1954年生まれ		
	大阪芸術大学卒		
	主に大阪、神戸で発表。		
	2010年、亀岡市西別院町で石彫公園ミチガーデンを開園。		

29	井尻杏那	Ijiri Anna	陶芸家
	2017 京都精華大学 卒業		
	2019 京都府立陶工高等技術専門学校 卒業		
	2018 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018 ～里山どうぶつ園～」越後妻有地域		
	2022 井尻杏那 陶芸展 個展 京都高島屋6階美術サロン		
	京都を中心に作陶活動		

30	松井利夫	Matsui Toshio	陶芸家
	1955年大阪市生まれ 京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了後、イタリア政府給費留学生として国立ファエンツァ陶芸高等教育研究所に留学。エトルリアのブッケロの研究を行う。帰国後、沖縄のバナリ焼、西アフリカの土器、縄文期の陶胎漆器の研究や再現を通して芸術の起源の研究を行う。近年はたこつぱ漁、野良仕事に没頭し人間の営みが芸術に変換される視点と場の形成に関する研究を重ね、公開講座「ネオ民藝」を運営する。現在：京都芸術大学教授、滋賀県立陶芸の森館長、IAC国際陶芸学会理事。		

31	八木良太	Yagi Lyota	メディアアーティスト
	見たいのしか見ない・聞きたいことしか聞かないといった、我々の制限的な知覚システムあるいは態度に対する批判的思考をベースに作品制作を行う。既製品を用いて作品を構成し、その現れによって人間の知覚やそれを利用した工学的システムを浮かび上がらせるような作品を発表している。音響作品をはじめとして、オブジェや映像、インスタレーションからインタラクティブな作品など、表現手法は多岐にわたる。		

32	Wong Chung Wah + FOK Ching	アーティスト	
	香港出身、京都在住のWONG Chung Wah（デザイナー／アーティスト）とFOK Ching（版画アーティスト）。瀬戸内国際芸術（2019）から始め、かめおか霧の芸術祭・城跡芸術展（2022）などの実験場で、領域横断の媒介と展示手法を用い、日常の営みにアートを持ち込み、人々が芸術に出会う場をつくらせている		

33	黒川徹	Kurokawa Toru	彫刻家
	1984年京都府生まれ。メビウスの輪やクラインの壺のような、内と外のない数学的な造形を制作する。素材は主に陶や鉄を用い、これまで約10カ国で滞在制作を行なっている。近年は、ザ・サウザンド・キョウトや Cross Hotel Kyoto など、公共空間のアートを手がけるほか、フランス・パリで Rising Talent Award Craft を受賞。またN’SO KYOTOによるコンサートでは、弦理論をテーマとした音楽彫刻「セラモフォン」を制作している。		

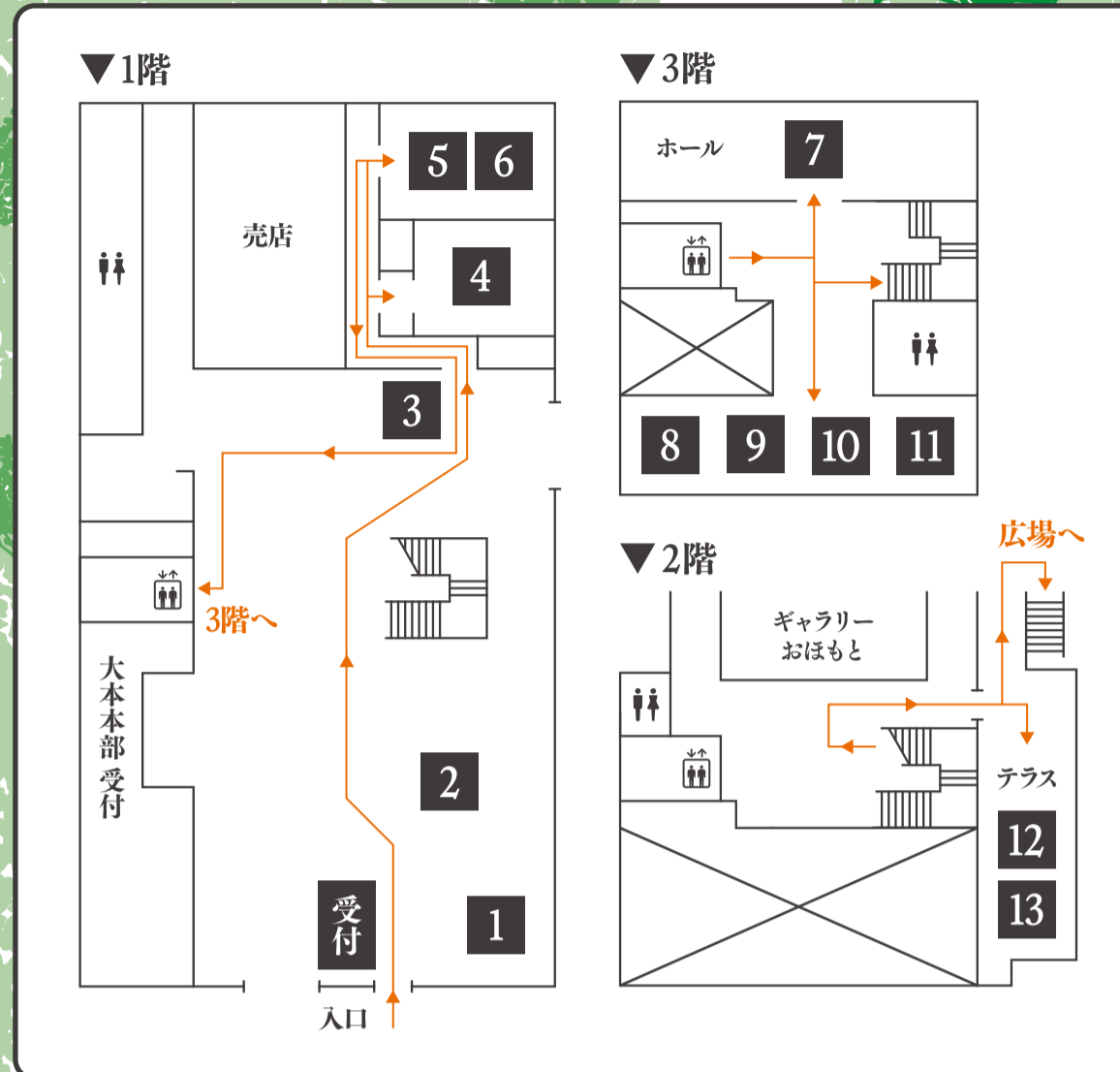
34	Acoon Hibino	音楽家	
	滋賀県出身。作曲家、ピアニスト、画家。2013年、528Hz音楽（機能性を持った音楽）を確立する。2015年テイチクよりメジャーデビュー「心と体を整える～愛の周波数528Hz～」第57回日本レコード大賞企画書受賞。2018年亀岡市にMoon Studioを建設。同じく2018年から亀岡市観光大使に就任。2021年「聴く処方箋」シリーズを発表し配信リリース。		



https://kameoka-kiri.jp/shiroato-art-exhibition/

◀作家作品情報は特設HPにも掲載しています。こちらのQRコードよりご覧ください。

MAP 会場マップ:



- ① みろく会館・広場エリア**
- 1 キリノマチ
 - 2 画材循環プロジェクト「巡り堂」
 - 3 吉田伊佐
 - 4 大村大悟
 - 5 渡辺信喜
 - 6 西久松吉雄
 - 7 崔石鏞 (チェソクホ)
 - 8 小峰花香
 - 9 WATAKAMA / わたかま
 - 10 松岡勇樹
 - 11 稲あゆ美
 - 12 YUKO KIMOTO・Hikaru Toyoda
 - 13 森太三
 - 14 西野康造
 - 15 辻將成

万祥殿の奥の有料エリア(大本神苑内・300円)を見学される場合は、大木本部受付で申してください。

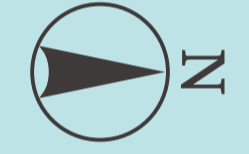
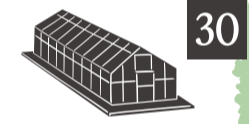
会場 花明山植物園

③ 花明山植物園エリア

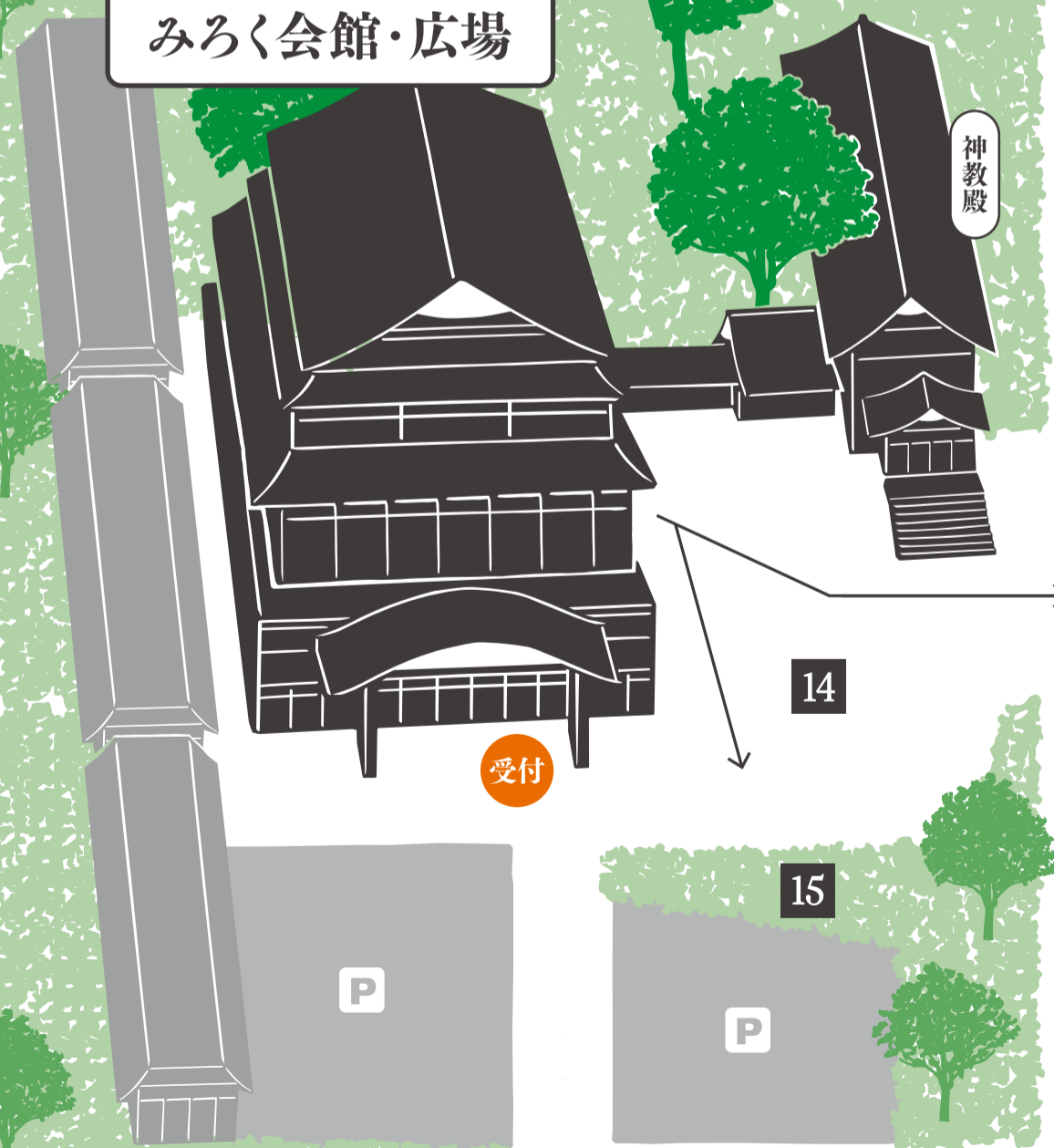
- 27 ミシオ
- 28 山口さとこ
- 29 井尻杏那
- 30 松井利夫
- 31 八木良太
- 32 WONG Chung Wah + FOK Ching
- 33 黒川徹
- 34 AcoonHibino

大切に育てられた植物ですので、足元には十分お気をつけてください。

ガラス温室



会場・受付 みろく会館・広場

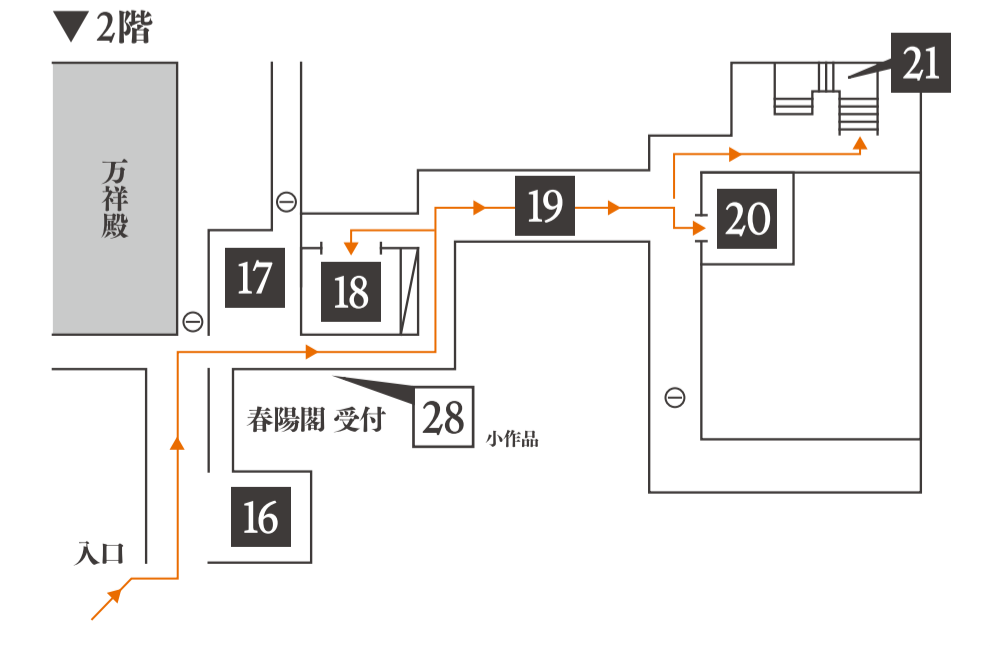
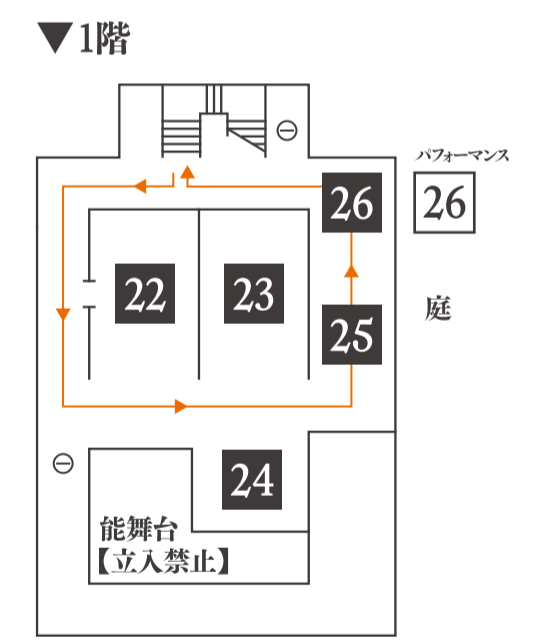


会場 春陽閣

※春陽閣にはこちらから入ることができません。

② 春陽閣エリア

- 16 ベリーマキコ
- 17 石塚源太
- 18 小松千倫
- 19 荒井優作
- 20 上田晋
- 21 奥村博美
- 22 大矢一成
- 23 西久松友花
- 24 出口鯉太郎
- 25 ZENG HUIRU
- 26 Yuumi Hioki



駐車場入口

正門

至 亀岡駅

EVENT 会期中の催し：

各ワークショップ・体験の申し込みや
在廊予定の作家一覧は、こちらのHPから



◎ 展覧会やまちを楽しむ

ボンボンマルシェ Vol.8

“亀岡市内のモノ・ヒト・食”の「循環」をコンセプトに、地域に新たな価値を生み出し、愛着の湧く日々をつくるマルシェです。クラフト、物々交換市、食のマーケット、ワークショップなど、総勢39組の出店が会場に立ち並びます。



日時 10月14日(土) / 10:00~17:00
料金 入場無料(ワークショップは一部有料)

QRコード
詳細はこちらのQRコードより
かめおか霧の芸術祭HPをご覧ください

展覧会ツアー

当日在廊しているアーティストに作品や制作に纏わる話を聞きながら展覧会を回ります。皆さんでわいわいと話しながら見ることは、一人でじっくりと作品に向き合うとは全く別の体験になります。お気軽にご参加ください。



日時 10月14日(土)、15日(日)、
21日(土)、22日(日)
10:00~12:00
料金 参加費：無料

祭りの城下町巡り

城跡芸術展、亀岡祭に合わせて、ひと、まちの繋がりをつくる Fogin 並河杏奈さんと、城下町を巡ります。城下町の名残を感じながら、商店街を歩き、亀岡祭の活気、お店や酒蔵など、変わらぬ風景や変わりつつある街の営みを見てまわります。



日時 10月24日(火) / 14:00~16:00
料金 参加費：無料

植物園を歩く旅&植物標本作り

植物園ツアーでは、秋の花岡山植物園を歩き、植物の手入れの方法なども交えながら、見どころを解説していただきます。また、植物標本作りWSでは、植物の特徴を調べる植物標本の作製(押し葉の貼り付け作業)を体験できます。



日時 10月21日(土)、22日(日)
10:00~12:00、14:00~16:00
料金 参加費：無料

◎ 大本の伝統に学ぶ

大本では、普段から茶道や短歌、武道や能楽といった芸術に親しみ、その心を生活に活かしていくことを大切にしています。能楽体験では、シテ(舞い)や、楽師の演奏を体験できます。少しか目がない能面をつけてどうやって舞うの? すり足ってなんで? 太鼓や笛ってどんな意味がある? そんな疑問にもお答えします。また、お茶席体験では、伝統的な茶室で、茶席を楽しむことができます。お茶室への入席、お抹茶の頂き方を知り、深まゆく秋を「塩武」さんの和菓子とともに味わいます。

お茶席体験

日時 10月21日(土)、22日(日) / 14:00~15:00
料金 参加費：500円(抹茶・お菓子付き) / 各日 先着15名限定

能楽体験

日時 10月22日(日) / 13:00~14:00
料金 参加費：無料

◎ 出展作家によるパフォーマンス、ワークショップ

パフォーマンス： 風の庭 Another episode of DUALITY

現代美術家・ストリートダンサー(B-boy)の辻将成が、手掛けるパフォーマンスアートDUALITY。どのような時間・空間が展開されるのだろう。踊りは言語では無い。その目・身体で体感しに来てほしい。

日時 10月14日(土)、15日(日) / 12:00~、15:00~
公演時間70分(パフォーマンス+トーク) 中面マップ 15
料金 観覧費：無料

パフォーマンス： 日置結弥 Yuumi Hioki

絹の羽衣と人をテーマにした舞。自然の中で縫うように、静かに呼吸するように、踊る。日本における絹の伝承、秋の豊穣、衣食住、日々の豊かさに祈りを込めて。

日時 10月14日(土) / 12:00~、15:00~ 音: 尺八 石原諭山 / 太鼓 でぐち みつき
15日(日) / 12:00~、15:00~ 音: 中谷豪秀/gamaOil / 太鼓 でぐち みつき
公演時間20分 中面マップ 26
料金 観覧費：無料

ワークショップ： キノノマチ

土地に見立てた木板の上に、様々なカタチの木片を組合わせて、架空の街「キノノマチ」をつくります。完成した作品は会場に会期中展示することもできます。(会期終了後持ち帰り可能) 木片は自由に使えます。

日時 会期中毎日 / 10:00~16:30
料金 参加費：300円~

◎ 周辺情報 / 展示

みずのき美術館コレクション展2023 後期「霧」

晩秋から初春にかけて、亀岡盆地一帯には「丹波霧」と呼ばれる濃霧が発生します。京都市内から電車で揺られて西へ向かうと、保津峡の辺りからだんだんと霧が立ち込み、最後のトンネルを抜けた先で景色が一変。それはまるで、現実から離れたまったく別の世界へ迷い込んでしまったような錯覚を覚えるほどです。細かな水滴が浮遊しているにすぎないこの現象に対し、人間は、様々な意味をそこに重ね合わせ、物語をつくり出してきました。今回のコレクション展では、色づかい、素材、技法などから、霧を彷彿とさせる作品を中心に紹介します。抑制された色味や不明瞭な輪郭線は、より注意深く見ることを促し、その奥に隠された複雑な手数や高い集中力の痕跡が伝わってきます。



会期 10月6日(金)~12月24日(日)
開館日 金曜・土曜・日曜・祝日
時間 10:00~17:00
※10月20日(金) 休館
※10月21日(土)・22日(日)は、館内入り口付近に亀岡祭山鉾御神体飾りがございます。
料金 一般400円 / 高大生200円 / 中学生以下無料
会場 みずのき美術館(京都府亀岡市北町18 / 電話: 0771-20-1888)
※美術館に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

QRコード
詳細はこちらのQRコードより
みずのき美術館HPをご覧ください

開かれたアトリエ公募展「五人五色展」

かめおか霧の芸術祭は、亀岡市役所地下の「開かれたアトリエ」を地域の皆さんの多様な作品発表の場とするため、今回初めて公募展を企画しました。7月にかめおか霧の芸術祭HPや公式SNS、チラシなどで公募し、5人の出展者が決まりました。陶芸や編み物、水彩画や日本画、木版画や立体作品など、ジャンルも経歴も様々な作品を展示します。ぜひご来場ください。



【出展者・作品名】
重月 Azuki 「カイゴノイマ(土と糸)」
児嶋俊見 「山の風・里の風」
澤田太晟 「天国の門」 「傀儡」
つとむ 「透明水彩画の世界」
難波忍晴 「みどりのふゆけい」

QRコード
詳細はこちらのQRコードより
かめおか霧の芸術祭HPをご覧ください

「霧の町」 中国・黔南布依族ミャオ族自治州と 日本・亀岡市の交流展

【出展者】HU YIHANG & WANG HAOJUE
QRコード
詳細はこちらのQRコードより
instagramをご覧ください

会期 10月6日(金)~26日(木)
時間 9:00~17:00(最終日は15時まで)
※会期中無休
料金 入場無料
会場 亀岡市役所 地下1階「開かれたアトリエ」
(京都府亀岡市安町野々神8 / 電話: 0771-55-9655)
※車でお越しの方は市役所の駐車場をご利用ください。

亀岡祭 山鉾行事

丹波亀山城跡周辺の山鉾町では23日から山鉾が建ち、暗くなると提灯が灯り山鉾の上で子供たちがお囃子を演奏します。

日程 10月23日(月) 宵々山
10月24日(火) 宵宮
10月25日(水) 山鉾巡行

QRコード
詳細はこちらのQRコードより
亀岡祭公式HPをご覧ください



CALENDAR イベントカレンダー：

10月

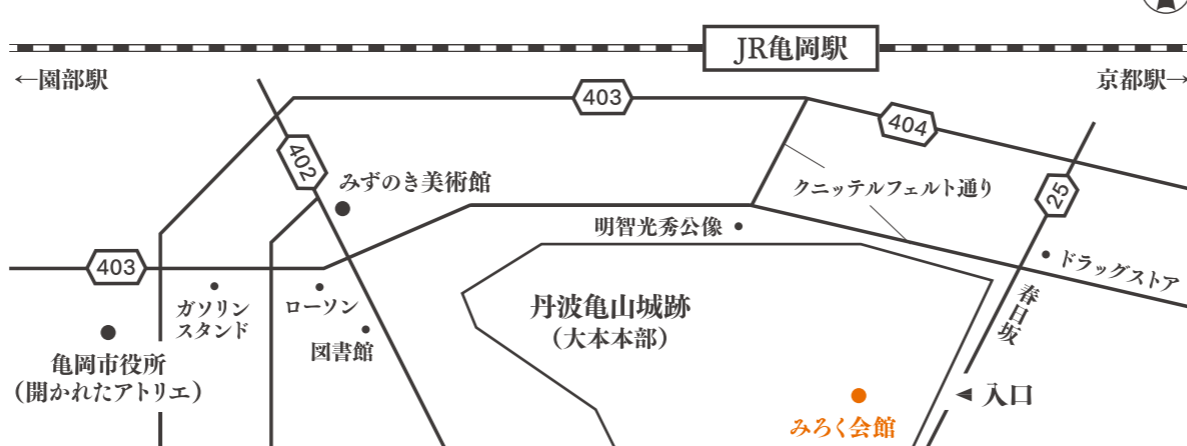
6 金	みずのき美術館コレクション展2023 後期「霧」(~12/24まで) 「五人五色展」霧の町@開かれたアトリエ(~10/26まで)		
14 土	城跡芸術展 初日 ボンボンマルシェ Vol.8 / 展覧会ツアー / パフォーマンス：風の庭 Another episode of DUALITY / パフォーマンス：日置結弥 Yuumi Hioki		ワークショップ：キノノマチ(会期中毎日)
15 日	展覧会ツアー / パフォーマンス：風の庭 Another episode of DUALITY		
16 月			
17 火			
18 水			
19 木			
20 金			
21 土	展覧会ツアー / 植物園を歩く旅&植物標本作り / お茶席体験		
22 日	展覧会ツアー / 植物園を歩く旅&植物標本作り / お茶席体験 / 能楽体験 / パフォーマンス：日置結弥 Yuumi Hioki		
23 月			亀岡祭 宵々山
24 火	祭りの城下町巡り		宵宮
25 水	城跡芸術展 最終日		山鉾巡行

それぞれのイベントの詳細は、
WEB / SNS にて随時お知らせします。



お問い合わせ：
かめおか霧の芸術祭実行委員会事務局(亀岡市文化国際課内)
メール / kirikameoka@gmail.com
電話 / 0771-55-9655(直通)

MAP 周辺マップ：



VENUE 会場：

丹波亀山城跡(大本本部)
〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸

電車 / JR嵯峨野線 亀岡駅 南口より徒歩10分
車 / 京都縦貫自動車道亀岡ICより10分(駐車場完備)